

もう一度！

教場をみんなで元気にしよう！

会長 鈴木 精成

三年余にわたる「コロナ禍」のもとの生活も、やっと平生に近い日々を送れるようになってきていることは嬉しいことです。但し油断は禁物、十分な心構えは備えていきましょう。

この間、私たちの「吟楽活動」も大きな変化のもとに取り組まざるを得ない状況でした。対面での教場活動も思うに任せぬなズーム、ホーム



令和 5 年 7 月 弘 報  
千 代 田 岳 精 会

令和五年岳精流指標  
感 恩

ページ等新たな研修方式に取り組んだりしてきました。これらの研修が、幸い復活してきた教場の「対面研修」を補完するものとして大いに役だつてきています。

去る三月三十一日（金）には、千代田年初の重要行事である「昇伝審査会」を九三名の参加（別途実施の表参道教場十二名を含む）で無事終了しました。宗嗣・横山龍精、副幹事長・佐藤精堂両先生の懇切なる審査、ご指導に参加者一同大いなる希望をいただいた次第です。むつかしい条件下、研鑽を重ねての受審に臨まれた皆さんに拍手を贈ります。

時の経過の早さを感じつつ、私たちは七月一日（土）に「全国吟道大会」を迎えました。宗家の文部科学大臣地域文化功労者表彰受賞という意義深い慶事をいただいたの大会であり、久方ぶりに「コロナ」からの僅かながらの解放感を感じての大会でした。

千代田からは一五〇名の会員参加と十七名のご招待観覧者があり、大会を大いに盛り上げました。

今年の大会では、役員として当会がコンクール運営を担い関根雄山事業部門長のリーダーシップのもと、役員全体が責任を果たしていただきました。当日は舞台係、司会、物品搬出入等「縁の下の力」のご協力もいただきました。心から感謝

申し上げます。

今年の大会の出色は、独吟コンクール代表お二人の健闘に加えて、構成吟へ多くの方の参加があったことです。本部のご推薦をいただき、吟詠に十名、舞に三名とまことに賑やかな出番でした。参加の皆さんがこの経験を大事に生かされることを期待します。

令和五年も後半を迎えています。

今年の私たち千代田岳精会のスローガンは、

**吟友（とも）呼び、声かけ 元気な教場を！**

**大一步「四〇」へ！** です。

「教場拡充推進顕彰」を、年間を通して実施し教場拡充計画を立てての取組みを進めています。その成果も少しずつ現れています。

○身近な知友人への気軽な呼びかけ

○休会中の吟友への復会呼びかけ

○地域広報の活用

先日の大会へのご招待者から入会希望が伝えられているのは、ホット中のホットニュースです。

岳精流本部の新たな動きとして「**全国一斉教場活性化**」キャンペーンが七月一日から十二月末日まで展開されていることは、皆さんご承知のことと思います。キャンペーンツールとして、メッセージカードが用意されています。積極的に活用しましょう。

「今現在の吟友との切磋琢磨は最高の幸せ。加えて、迎える新しい会員吟友の笑顔は最々高の励み」です。今こそ元気な教場づくりを！

宗家 横山精真  
文部科学大臣地域文化功労者表彰  
受賞記念

# 全国吟道大会 開催

前日の六月三十日、九州から北海道にかけて梅雨前線が広がり熊本県で六月一位の降水量を更新する等、全国的な荒天で何とか天気が回復してくれることを祈った。七月一日当日、時折風雨が強まったが南から北まで日本全国の吟友が「カルツツかわさき」へ参集し、コロナ明けの全国吟道大会を、宗家の文部科学大臣地域文化功労者表彰受賞という慶事と相俟って盛会裏に終えた。

千代田は毎年最大の参加人数で一般合吟男子・女子とも二チーム、独吟コンクール二名、構成吟へ吟十名、舞二名および本部役員吟詠に参加して大会を盛り上げました。

大会を支える役員分担には千代田が独吟コンクールの集計、表彰係を受け持った。また舞台係は千代田を中心とする諸会連合で、機材の運搬・搬出係は千代田・多摩合同で実施した。

表舞台では見えない皆様の支えが有つての全国吟道大会と思います。ありがとうございます。



千代田、男子合吟Bチーム



千代田、女子合吟Aチーム

## 第二部 独吟コンクール



西川琉山（新陵教場）



中野陽風（新宿支部教場）



八田精猷、下條信山、徳本精治（千代田） ほかに本部役員の皆様

第五部  
本部役員吟詠

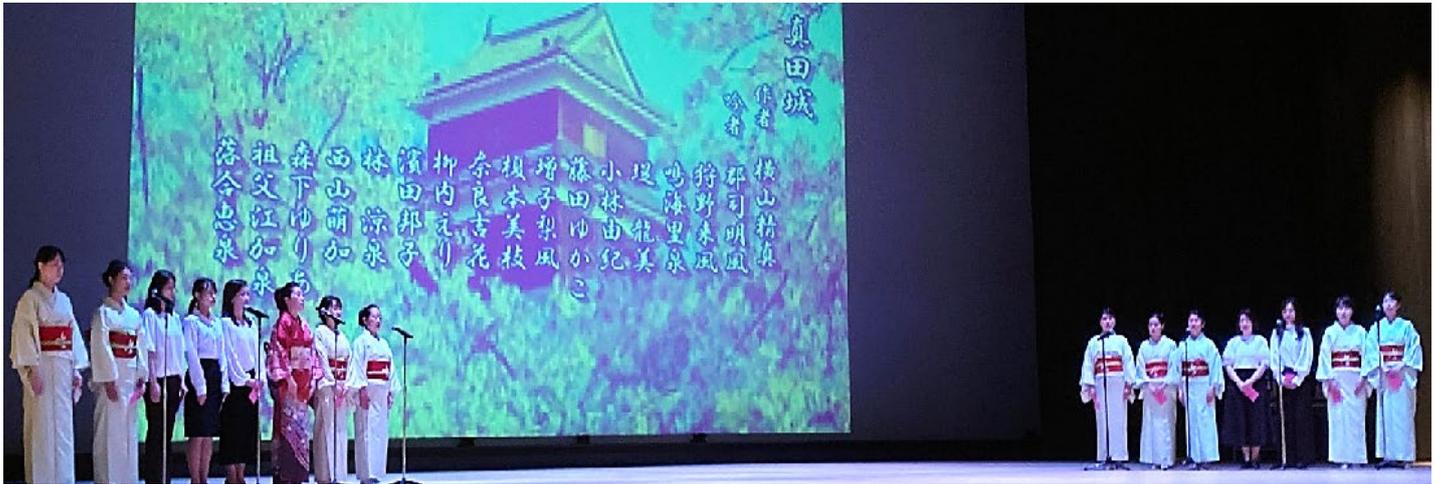
## 第八部 構成吟「徳川家康」主な場面



中内龍博（金町） 粕川龍紘（神田）



石井寅山（新宿支部教場） 笹川正平、望月保延（表参道教場）  
三河、大村、湘南の各教場の皆様



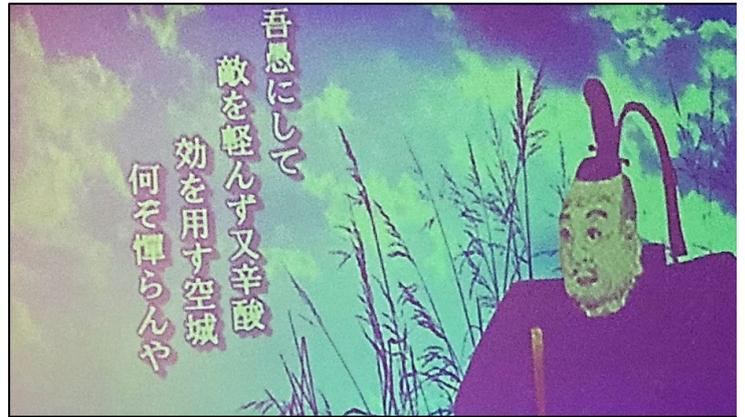
増子梨風（銀座教場） 榎本美枝、奈良吉花、柳井えり、濱田邦子（表参道教場）  
 渋川、多摩、六郷、品川、相模、一宮、町田の各教場の皆様



小谷野煌弘(神翠流神翠館)



松尾千壮(千峰流千壮会)



横山千秀(千峰流千秀会)

### 全国吟道大会に参加して

表参道教場 笹川 正平

岳精流日本吟院 全国吟道大会開催、誠におめでとございました。また、改めまして、横山精真宗家の文部科学大臣地域文化功労者表彰、心より御慶び申し上げます。

私の祖父笹川良一、祖母笹川鎮江は、吟詠こそが日本の精神文化の高揚に不可欠な芸道であると全国的な普及に邁進致しました。笹川鎮江が一番尊敬した吟詠家は、横山岳精祖宗範、その人です。

一昨年、青山学院理事長堀田宣彌様の御導きで千代田岳精会表参道教場に入会し、今回、全国吟道大会参加の榮譽を頂く事が出来ました。

千代田岳精会合吟、徳川家康構成吟への参加を通して、普段より吟詠を愛する皆様との一体感に陶醉し、私の人生の中でも大変貴重な一日となりました。

今後も岳精流の皆様と研鑽を積み、岳精流の更なる発展と共に、祖父祖母の志と同じく、日本の精神文化の発展に貢献出来ればと考えております。いつも優しく御指導を頂いております横山龍精宗嗣、徳本精治先生、また当日御一緒させて頂きました皆様様に心より御礼を申し上げます。

### 全国吟道大会に参加

丸の内支部教場 柴田 弘山

詩吟を始めて吟の発声について、やっと腹から

声を出せるような気がします。教場も新宿から池袋と変わりましたが、教場へ通うのが楽しくなりました。

全国吟道大会は千代田合吟チーム（男子A）に参加致しました。一般合吟は教場より参加希望者が集まり、舞台では他教場の会員と一緒に吟じました。中には吟題「余生」の詩を手に持ち暗記している姿もありで、楽しく全員で声と気と心を合わせて吟じました。十分な成果をあげられたか心配でしたが合吟が終わってほっとした気持ちでした。

舞台から客席を見た時、二階席が空いていたように見えこれからは詩吟を楽しんでもらえる人がもつと増えるよう努力していきたい。

### 全国吟道大会に参加して

金町教場 小野 弘子

先日は全国吟道大会に参加でき、ありがとうございました。とても素晴らしい吟と剣舞を見るこ

とが出来ました。私は仕事に夢中だったため詩吟にめぐり合ったのは高齢になってからですが、早いもので間もなく二年になります。

子供の頃は日本舞踊、四十代には着付け、新舞踊も経験しているせい、最近では四十年前を思い出し、着物を着たいと思う気持と今更と気持が交差しています。でもこれからは何事も勇気を出して挑戦するのも大事だと思っています。早く友人知人の前で吟じられるように頑張ります。金町教

場の先生をはじめ、教室の皆さま、今後ともよろしくお願い致します。

### 初めての全国吟道大会

表参道教場 柳井 えり

若手合吟に参加を、とお話を頂いた時そもそも若くないですし、八本という高い音など出したこともなかったのでご遠慮しようと思いましたが。覚悟もな

いまま教場のみんなで練習し、励まされているうちに当日はあつという間に来ました。

前日リハーサルには表参道教場のメンバーは誰も参加出来なかったため、本番前に初めて一緒に他の支部の方達とお会いしたのですが、皆さまとても和やかな雰囲気でも温かく迎え入れて下さいました。円になり練習しながら、年齢も経験も異なる

全国のそれぞれ違う場所で活動されているとは思えない程の、声の重なりと厚みのある一体感に圧倒され、感動しました。

本番も、皆さまの素晴らしい吟声に左右の耳で聞き惚れながら「自分なりに」ですが精一杯吟じることが出来ました。一つのを、力を合わせ皆で創り上げるのは素晴らしい体験ですが、「合吟」は特別でした。この経験に感謝し、今後に生かしてまいります。



## 千代田岳精会人事

### ◇ハザマ支部教場

教場長代行 宮永 明風  
副教場長 三島 寿風  
同 滝沢 春風

令和五年五月一日付

### ◇研修部門

リーダー 小浦場伯山

令和五年七月一日付

### 教場長代行を拝命

ハザマ支部 教場長代行 宮永 明風

この度、ハザマ支部教場長代行を拝命しました。萩原教場長の体調による不在をハザマ支部教場全員が力を合わせて支えるべく、主なメンバーで打合せ、小生が教場長代行の指名を受けました。萩原教場長の復帰を祈念するとともに、微力ではありますがですが精一杯力を尽くしたいと考えております。

皆様よろしくご支援お願い致します。

### 想定外の就任

ハザマ支部 副教場長 三島 寿風

萩原教場長の体調不良にて不在が続いたので、教場の体制整備を打合わせる事になり、宮永教場長代行、小浦場副教場長（継続）、滝澤副教場

長を提案したところ、小生を副教場長にと指名された。経緯から断りも出来ず受諾することとなった。しかし指導する立場となつて、それが出来るのか自信がなかった。

指導する日が来た。素読から始まり、当日の詩吟の独吟をして大呼吸の箇所の説明に次いで、詩に「う」とあるが「う」と吟ずるところと「お」と吟ずるところがあることを、また、「うを」とあり「お」としないので「おを」と吟ずることを説明した。そんなで第一回の指導が終わったが、反省しながら次回以降に対することとなった。

### 副教場長を拝命しました

ハザマ支部 副教場長 滝沢 春風

千代田岳精会ハザマ支部教場に入会して早いもので十五年が過ぎました。

五月に副教場長の指名をいただき、身の引き締まる思いと不安が一杯です。まだまだ実力不足でございますが今後も頑張つて精進を重ね、吟道に打ち込んでゆきたいと念じています。

楽しい教場になりますように……。どうぞよろしくお願い致します。

### 研修部門リーダーを拝命して

ハザマ支部 副教場長 小浦場 伯山

この度、萩原龍晴先生の後任として研修部門のリーダーを拝命致しました。

千代田岳精会に入会して十年余、私より経験豊

富な方が大勢いらっしゃる中で、の拝命、いささかプレッシャーを感じております。

研修部門は、千代田内の対面研修会やズーム研修、総本部主催の研修会の窓口等、業務は多岐に渡っております。会員の平均年齢に比べると、七十台前半の私の年齢ではまだまだ若い部類に入りますので今までと変わりなく、千代田岳精会の一雑用係として業務を遂行して行きたいと思っております。

これからも皆さまの多大なご協力を宜しくお願いいたします。

## 春の昇伝審査

### 吟声に意気込み溢れる!!

春の好天に恵まれた三月三十一日（金）、新宿文化センターにて、総本部から宗嗣・横山龍精先生と副幹事長・佐藤精堂先生を審査員にお迎えし開催されました。

従来の教場単位の審査から層別審査になつて二年目になり、西川許証部門リーダーの入念な準備で当日欠席や遅刻もなく皆さんの意気込み溢れる昇伝審査でした。

両先生とも一人一人の受審者に対して懇切な指導と助言があり、終了後の講評では、「全体としてよく勉強をしてこの日に臨まれた。節調など岳精流の基本がしっかり守られている」、「吟題の読み方が、総じて良かった。その一方で、吟じ出

しで引いてしまっている人も見受けられ、もったいないと感じた」、「ゆり止めの緩い人が散見された」等のご指摘がありました。また「教場ごとの練習の特色が伺えた。例えば素読をしつかりやっている、コンダクターをしつかり駆使して練習しているなど」のご感想も頂きました。

審査頂いた横山龍精先生・佐藤精堂先生及び運営にご協力頂いた先生方に心より感謝申し上げます。

### 教場別 受審申込者数

丸の内支部六名、草加一名、金町六名、鎌倉三名、桜ヶ丘四名、永山二名、清流三名、東陽町支部六名、みもぎ世田谷一名、神楽坂三名、熊谷二名、鎌ヶ谷二名、清水二名、中野三名、石神井二名、表参道十二名、神田四名、用賀三名、

ハザマ支部四名、生田一名、新陵五名、みなとみらい九名、

新宿支部五名、新宿第二、二名、新宿第三、二名、

合計 二十七教場 九三名

### 伝位別 受審申込者数

◎一・二級	六名	◎初段	十名
◎二段	二名	◎初伝(泉号)	十五名
◎三段	十四名	◎四段	十一名
◎中伝(山号)	十五名	◎五段	十四名
◎六段	六名		

### ◇初伝合格者

十五名

草加

長瀬 幸泉

金町 同 片桐 咲泉  
 桜ヶ丘 同 糸賀 春泉  
 神楽坂 新井 芳泉  
 熊谷 竹越 錦泉  
 鎌ヶ谷 三代川 栄泉  
 清水 島田 穂泉  
 石神井 望月 桂泉  
 同 大竹 玉泉  
 神田 中野 郷泉  
 用賀 清水 高泉  
 同 星谷 昌泉  
 ハザマ支部 金澤 眞泉  
 みなとみらい 川西 寛泉

◇中伝合格者

丸の内支部 柴田 弘山  
 同 座間 萌山  
 同 岡本 英山  
 鎌倉 阪川 信山  
 桜ヶ丘 榎田 喜山  
 清流 中井 武山  
 東陽町支部 伊藤 善山  
 熊谷 小池 真山  
 神田 櫻井 気山  
 用賀 坂部 玄山  
 ハザマ支部 川口 忠山  
 同 松田 俊山  
 新 能島 浄山  
 同 西川 琉山  
 新宿支部 小川 尚山

十五名

初めて昇伝審査を受審

初めて昇伝審査を受審しました。

金町教場 二級合格 高林 美代子

佐藤先生、太田先生、中内先生、ご指導ありがとうございました。

私は忙しいので昼間練習が出来ません。夜寝ながら、夜中目覚めたとき、朝起きた時など、何回もくり返し詠ったりしていました。

試験の前に、中内先生が声出しの練習をして下さいましたが誤読をしてしまいました。緊張すると頭の中が真白になってしまいました。本番の時は、どうぞ誤読をしませんようにお願い、試験に臨みました。無事に詠い終わりほっとしました。

ボケ防止の為に詩吟を続け、健康でいられるようにと思っております。宜しくお願い致します。



初めての昇伝審査

鎌倉教場 一級合格 川村 敏宗

昨年七月に入会して初めての昇伝審査となりました。

審査員の先生方を前にし、名前を呼ばれて吟を開始。緊張のためか、途中で二度ほど息がかすれ詰まる場面もあり青色吐息で終了。

佐藤精堂先生からは「喉から声を出している傾向があるので、もっとお腹から声を出す様に」とのご指導を頂きました。

審査終了後には、受審者全員に対して「腹で吟ずること。腹の力を緩めないこと。お腹からアコデーオンで息を押し出す様な意識。思いをぶつけること」など貴重なご指導を頂きました。先生の範吟「余生」は、その力強さ、美しい流れに感動させられました。

今回頂いた助言を心に留め、今後も日々の練習に励みたいと思います。有難う御座いました。

初伝合格者

初伝を受審して

清水教場 島田 穂泉

八十歳から始めた詩吟ですが、三年目にして初伝を受審することになりました。

今まで指導していただいた徳本先生、細川教場長、会員の皆様に感謝申し上げます。

詩吟を始めたきっかけは仕事から完全に開放

され何か新しいことを始めようと考え、清水OB会に詩吟のサークルがあることを知って入会しました。何も分からない新参者を熱心に指導していただき、詩吟を始めて良かったと感じています。詩吟は健康に良いこと、ボケ防止に役に立つと思っっています。まだまだ未熟ですが、今後とも健康のため体の動く限り精進したいと思っっています。

### 初伝審査を終えて

金町教場 糸賀 春泉

まずは何よりも楽しく教場へ通わせていただいておりますこと、太田先生、中内先生、教場の皆様へ心より感謝いたしております。

詩吟のことがほぼ分からない私でしたが、太田先生にお声かけていただいてから今日まで新しい発見や出会い、学びや感動がたくさんありました。

改めてこれからも「温故知新」の気持ちで詩吟を続けてゆきたいと思う様になりました。ご指導の程、どうぞよろしくお願いいたします。

### 令和五年度の初伝審査を受審して

ハザマ支部教場 金澤 眞泉

私がハザマ支部教場に初めて参加したのは三年前でした。運悪くコロナが感染し始め、しばらくして教場は休会になりました。その後もコロナは第二波、三波と感染が拡大し、教場は休会のま

まででしたが、ズームで初心者向けに詩吟の教室を開催するとのご連絡をいただき、さっそく参加させていただきました。

以来、ズーム教室の講師の先生方の指導をいただき、また再開したハザマ支部教場の皆様の指導もいただき、今回初伝審査を受けさせていただくことになりました。

審査当日、午前中の練習でも高い声が出ない。やむなく届けていました一本から水一本に修正させていただき審査に臨みました。吟じ終わり、佐藤精堂先生より「声はよく出ていた」と評され、漸くとほっとした次第です。

ご指導いただいたハザマ支部教場の皆様とズーム教室の先生、そして審査していただいた佐藤先生を始めとして諸先輩に感謝申し上げます。ありがとうございました。

### 中伝合格者

#### 中伝を受審して

神田教場 櫻井 気山

小学校から音楽が苦手でした。それが勧められ詩吟を習い出し、教場の先生から厳しく温かく教えられますが中々できません。

今回、中伝という難しい段階に臨みました。暗記で吟じられるほど練習したのに、本番で吟題が浮かんで来なく困りました。

吟じた後、宗嗣から大山のことを注意されました。大山のことは教場で何年も指導されているこ

とです。改めてやるべきことがハッキリしました。宗嗣の音量、張り、他の方への指導等、詩吟の深さ、魅力を感じました。更に一層努力し、この課題を克服していきます。

### 「詩」と「吟」を学ぶ

清流教場 中井 武山

今回の昇伝審査(中伝)では、宗嗣直接のご指導と他教場の皆様の吟をお聴かせいただき大いに自らを反省し、学ばせていただきました。

「詩吟」はまさに「詩」と「吟」で成り立つものと教わりました。「詩」は、まず作者の意図を正しく理解すること。そして「吟」は丁度、歌舞伎の科白の如く、前に向けて力強く発声するものであること。それによって千年以上前の詩さえも現代に甦り、我らの胸を打つものになるものと。これからも皆様の驥尾に付して精進致したいと思っいます。

#### 中伝審査を受審して

用賀教場 坂部 玄山

今年の中伝指定吟「舟中子規を聞く」(城野静軒)は先のコンクール指定吟題の一つになっていたこともあり、仲間の方々のこの吟詠に早い時期から触れておりましたので、私の目や耳に自然となじんで行った気がします。

一方「春雨に筆庵に到る」(広瀬旭莊)は玉ねぎ畑がどうしたの?とか、おそろおそろ蓋を開けま

したが、私は直ぐに大好きになりました。作者旭  
 莊のあたたかな人間味が伝わって楽しく吟詠に  
 励みました。

短歌は、私は迷わず「いざ行かむ」です。若い情  
 熱のほとぼしるこの名作に愉しく酔いました。牧  
 水の苦悶する恋心、若い詩人の魂に触れました。  
 吟題二つ短歌一つ、時として言葉に詰まり焦り  
 もしながら、録音再生を繰り返す日々……。どう  
 にか「中伝」審査壁を乗り越えることが出来ました。  
 戴いた課題を以て次なるステップになるよう  
 励みたい。



## 公益財団法人

## 日本吟剣詩舞振興会

# 吟詠コンクール

今年の「吟詠コンクール」はコロナ明けではあるが一定の準備をし、周到に開催されました。港区・品川区が二月に行われ、各々の入賞者は五月の東京都大会に臨みました。

### 港区吟詠コンクール大会

・二月四日（土）、麻布区民センターにて開催  
 出場申込者は他流派を含め八三名、千代田岳精  
 会員は過半数の四二名

・入賞は一般二部が二名、一般三部が一八名  
**品川区吟詠コンクール大会**

・二月五日（日）、荏原文化センターにて開催  
 千代田岳精会の出場者は三二名  
 ・入賞は一般二部が四名、一般三部が一三名

### 全国吟詠コンクール東京都大会

・五月三日（水）～七日（日）、荏原文化センターにて開催

### 出場申込者数

一般三部は、四二二名（五月三日～五日）  
 一般二部は、一一三名（五月六日）  
 幼・少・青年と一般一部は、一三四名（五月七日）  
 ・健闘僅かに及ばず、千代田からの入賞は無く、  
 努力賞が一般二部は二名、一般三部は四名。

来年に向けての目標を新たにしたいコンクールでした。

### ○港区入賞者

◇一般二部 九位 吉川 福恵 (金町)

十位 高林美代子 (金町)

◇一般三部 優勝 片山 寿風 (みもぎ)

三位 西川 琉山 (新陵)

五位 下條 信山 (丸の内)

六位 宮野 秀風 (東陽町)

七位 田村 龍蘭 (みもぎ)

八位 小梶 湖山 (新陵)

九位 土居 佳山 (みもぎ)

十二位 竹森 伊山 (新陵)

十五位 座間 萌山 (丸の内)

十七位 柴田 豊山 (新陵)

十九位 鎌田 秋山 (丸の内)

二十一位 宮永 明風 (ハザマ)

二十三位 金城 明山 (神楽坂)

二十六位 日吉 薫風 (ハザマ)

二七位 中島 義山 (永山)

二八位 和田 之山 (新陵)

三十位 八田 精猷 (丸の内)

三十一位 藤村 恵風 (永山)

### ○品川区入賞者

◇一般二部 (全員)

中野 郷泉 (神田)

石井 寅山 (新宿)

大和田久泉 (新宿二)

中野 陽風 (新宿)

粕川 龍紘 (神田)

宮川 龍丞 (神田)

平井 武山 (志茂)

橋本 淳風 (新宿)



◆東京都大会 努力賞

◇一般二部

(努力賞)

中野 陽風 (新宿)  
高林美代子 (金町)

◇一般三部

(努力賞)

宮野 秀風 (東陽町)  
西川 琉山 (新陵)  
岡部 禎風 (新宿)  
片山 寿風 (みもぎ)

(繰り上がり)

小倉 孝山 (新宿)  
中井 武山 (清流)

十位 波治 舞風 (新宿二)  
十一位 林 實山 (新宿三)  
十六位 中屋 明山 (神田)  
二十位 坂下 光風 (新宿二)  
二二位 小林 龍紫 (志茂)  
二三位 加藤 有風 (新宿)  
二五位 岡部 禎風 (新宿二)

新体詩「われら愛す」紹介

新陵副教場長 和田 之山

詩吟教本(人の巻)二二二ページを開くと新体詩「われら愛す」が掲載されている。

われら愛す 芳賀秀次郎

われら愛す

胸せまるあつきおもひに

この国をわれら愛す

しらぬひ筑紫のうみべ

みすすかる信濃のやまべ

われら愛す

涙あふれてこの国り空のま月さよ

この国り水のま月さよ

【作者】 芳賀秀次郎(はがひでじろう) 大正四年一月一日〜平成五年五月九日) 七八才歿。

日本の教育者、詩人、歌人。

山形県白鷹町横田尻に生まれる。昭和十年山形

師範学校(山形大学地域教育文化学部)卒業後山形大学教育学部附属小学校、山形南高、上山高での勤務を経て長井高校長を務める。

アララギ派の歌人として出発した。戦後は、戦中の反省から短歌を捨て詩作におもむく。

敗戦間もない一時期、失意と混乱の中で「君が代」に代わる新しい時代にふさわしい自分たちの国歌をつくらうという大きな国民運動があり、昭和二八年に壽屋(サントリーの前身、現在のサントリーホールディングス)社長である佐治敬三が中心となって新国歌を公募。これに応募した「われら愛す」が一位で入選する。



「われら愛す」を作詞した頃の芳賀秀次郎氏

「われら愛す」を作詞した頃の芳賀秀次郎

【鑑賞】八木倫明(山形県長井高校OB) ケーナ奏者、作詞家

「君が代」に代わり国歌になったかもしれない歌で「幻の国歌」と呼ぶ人もいる。なぜこの詩が五万種類もの応募作品の中から一位に選ばれたのか?

世界の民謡や愛唱歌は、ほぼ例外なく絶望から生まれた歌であるがゆえに歌詞にもメロディにも力があります。歌い継がれる本当の名歌は絶望から生まれる、という説で解説すると「われら愛す」も絶望の中から生まれたからです。

・そのことが二番の歌詞(補足、詩全文)にはつきりと表現されています。『悲しみが深いからこそわたしたちは歌う』というこの唄い出しこそが戦争の絶望から生まれた詩である証明なのです。

・戦争中には軍国教育に何の疑問も持たずに国策に協力した自分の教育者としての生き方を痛烈に自己批判した稀有の詩人。教え子たちを戦地に送ってしまった悲しみと苦しみ。自分だけの責任ではないとしても、そのとき何の疑問もなく軍国教師をしていた自分への絶望感。そんな心がないとこの詩は生まれません。

・筆舌に尽くしがたい絶望感を削ぎ落として簡潔にして詩として紡ぎ出す言葉は、その人そのもののなのです。

### 【語釈】

★しらぬひ筑紫のうみべ…「しらぬひ」＝「筑紫」にかかる枕詞。但し「しらぬひ」の語義および「筑紫(つくし)」にかかる理由には諸説ある。

・「しらぬひ」を「不知火」とするのが一般的。

★みすずかる信濃のやまべ…「みすずかる」＝「信濃」にかかる枕詞。「みすず」はスズタケ(篠竹)のこと。

・万葉集の『み薦刈る信濃の真弓吾が引かば、うま人さびて否と言はむかも(久米禅師)』

『み薦刈る信濃の真弓引かずして、弦を著はくるわざを知ると言はなくに(石川郎女)』

・この二首にある「み薦」を、江戸時代の国学者の荷田春満(かだのあずままる)と賀茂真淵が「みすず」と読んだことから、江戸時代以降広

く「みすずかる」が信濃の国の枕詞として定着した。

・昭和中期に国文学者の武田祐吉が「み薦」を「みすず」と読むのは誤読であり「みこも」と読むのが正しいと提唱。現在では「みこもかる」の読みが学術的には通説となっている。しかし、「みすずかる」には古風な美しい響きがあり、万葉の時代を想起させるにふさわしいため、信濃の国の枕詞として現在でも親しまれる。

### 【補足】詩全文

一. われら愛す

胸せまる あつきおもひに

この国をわれら愛す

しらぬひ筑紫のうみべ

みすずかる信濃のやまべ

われら愛す

涙あふれて

この国の空の青さよ

この国の水の青さよ

二. われら歌ふ

かなしみの ふかければこそ

この国のとほき青春

詩ありき 雲白かりき

愛ありき ひと直かりき

われら歌ふ

をさなこのこと

この国のたかきロマンを

この国のひとのまことを

三. われら進む

かがやける 明日を信じて

たぢろがず

われら進む

空に満つ平和の祈り

地にひびく自由の誓ひ

われら進む かたかくでくみ

日本のきよき未来よ

かぐわしき夜明けの風よ

新陵教場の課題吟として取り上げ、解説当番に当たったのでこの詩について調べました。

詩吟教本の数行の詩文に織り込まれた作者の人物、思いや時代背景が浮かび上がり、改めて一文字、一文字が違って見えてきました。作者は、戦前戦後を通して人も自然も心から愛した人だったのだらうと思います。

### 【新会員紹介】

◇丸の内支部教場

宮川 徹氏(二月入会)

大学の先輩であるお二人に誘われて、岳精会に入会させていただきました。

二〇世紀末、四〇歳直前、脳梗塞の右手麻痺、おまけに失語症。死にたいと思いました。しかし次第に回復、今では生き甲斐を見出せています。

詩吟は日本の伝統文化。力一杯、頑張ります。

大榮 勝次氏（五月入会）

先輩であり友人の声調に感動しまして入会させて頂きました。詩吟のことは全く分かりません。ご先輩方々のご指導をよろしくお願い致します。

◇金町教場

原田ひとみさん（二月入会）

令和五年二月に金町教場へ入会された原田ひとみさんのご紹介です。葛飾区広報を見て入会されました。吟の講習会に少しでも参加された経験があり、初日から良いお声で堂々と吟じられました。

岳精流女性幹部の先生方の吟を聴かれ、詩吟でこんなに感動するとは思わなかったと嬉しい感想を頂きました。ジャズをやっていたらとのことではやはり音感も良く岳精流の節調も直ぐ理解され今後楽しみにしております。

◇鎌倉教場

長山とよ子さん（二月入会）

入会のチャンスを与えて頂いたのは野沢さんでした。久々の電話で「大船には月二回通っておりますよ！」との事。ではお茶でもと思いつつと驚きましたが、その足で鎌倉教場へと向かい皆様に迷惑にならないようにと考えておりました。見学を重ね皆様の明るさや練習風景に接し二月よりお世話になる事にしました。

これまでの人生に詩吟はありませんでしたが、高校生の頃、廊下で聞いたことがあるくらいで自分でも不思議に足を運んでおります。

野沢さんは、野沢龍寿先生でした。穏やかな練習風景や皆様の優しさに感謝し、今後は足を引つ張らない様に、ご指導やお付合いを頂きながら少しずつ吟の練習を楽しんでいきたいと思っております。

◇永山教場

塚本 実氏（六月入会）

六十歳を過ぎ何か新しい趣味を始めたいと考えていた矢先、市の広報誌の「詩吟体験会」を見た際、過去の経験（十年程前、趣味で講談と一緒に習っていた仲間）に詩吟経験者がいて、その彼から詩吟を少々教わったことを思い出し、何気にもその体験会に参加してみたことが詩吟を習い始めたきっかけです。

いざ習い始めて感じているのは、詩吟も講談同様、聴衆に物語や情景、想い等を言葉で伝える話芸であり、とりわけ詩吟は僅か数十の文句で全てを表現し伝えるという点で、講談以上に一言一句を大切に扱わなければならないということ。そういう意味では、詩吟は詩の魅力を探求する楽しみは当然のこと、講談とは異なる形式の中で自己表現を追求する楽しみや挑戦の場ともなっています。今後とも永く続けていければと思います。

訃報

◆島田 正敏氏（市川教場）

令和四年十二月十四日逝去されました。享年七十七歳。平成二十二年入会。

謹んでご冥福をお祈りいたします。

◆榊山 良一氏（ハザマ支部教場）

一月六日逝去されました。享年八十四歳。平成三十年入会。謹んでご冥福をお祈りいたします。

◆木下 正次（正山）氏（桜ヶ丘教場）

三月三十日逝去されました。享年九十四歳。平成二十三年入会。謹んでご冥福をお祈りいたします。



編集後記

令和二年来のコロナ禍は今年五月に感染症法上の位置付けが「5類感染症」へ移行し、一区切りの感ですが、ウクライナ・ロシア紛争による国際緊張や地球温暖化は予断を許さず数十年ぶりの豪雨や高温で落ち着かない日々です。皆様変わらずお元気にお過ごしのことと思います。ちよだ七一号は、吟詠コンクール・昇伝審査・全国吟道大会とイベントを追いながら皆様へ原稿のお願いをし、何とか出来上がりました。改めて物事を纏める立場の大変さを思い、一方で思いがけない取材のご支援、ご協力のお力添え等元気を頂き心より感謝申し上げます。

これも八田先生の長年のご尽力による「ちよだ」資産あつてのことと思います。千代田の強みをもって最近の様々な変化を「機会」と捉え、うちちやりをかけて逆転に結び付けたいものです。

和田 之山